



1978-1984

# エース山本を擁し、 市民大会、総体を連覇!



市民大会優勝! みんなうれしそうないい顔です。(前列が41期)

## 忘 れられない二つの試合

六甲に入学し、サッカー部に入部したとき、私は明かに六甲サッカー部を甘く見ていた。これほどおっかない先生がいて、これほど強いチームでプレーできるとは思っても見なかった。そして、最大の誤算は山本雅彦の存在である。

山本は中一の頃から傑出した選手だった。高二の時には、県選抜として国体に出場し、全国優勝までしてしまった。全く大した奴である。

中学三年の春。市民大会。それまでの二つの大会で、いずれも2回戦負けだっ

た我々は、ドイツ帰りの木下の加入によって戦力アップ。予想を大幅に覆し、ベスト4に勝ち進んだ。準決勝の相手は、優勝候補筆頭の神戸フットボールクラブである。戸沢の先取点などで、前半は2-0とリードしたものの、後半には一気に2-3と逆転された。正直言って実力通りの展開である。しかし、終了寸前に同点に追い付く。延長戦では前半に1点を奪われ、再度引き離されるが、終了30秒前に山本のシュートでまたも同点。結局、試合はPK戦にもつれ込み、5人目の木下が決めて、我々は自分達でも想像しなかった大番狂わせを演じてしまった。

そのまま決勝戦にも勝ち、優勝。続く総体は、優勝候補(だったらしい)とし

て、順当に優勝した。どちらも六甲にとっての初優勝であった。

もう一つ忘れられないのが、高校一年の新人選。準優勝で、あの永島率いる御影工業との対戦となった。前半、両校得点なし。後半に得点を上げ1-0で逃げ切った。チームは勢い付き、市・県を制覇した。

私にとって、あの二つの試合はいつまでも忘れられない思い出である。というより、これまでの私の人生で誇れるものがあるとすれば、それはまさにこの二つの試合であり、いくつかの優勝の思い出である。

[本多 克巳]

ストライカー山本  
本当にすごかった。



第20回神戸市中学校総合体育大会で  
六甲中学が優勝した時の記事

(月刊/神戸のサッカー・  
1980.8月号)

左から戸沢、山本、  
本多、河合、新美、  
先生方、竹中。  
(卒業アルバムより)



## 41期のみんな

竹中功行

### 山本 キャプテン

負けん気が強く、かつ、おもしろくないことに、あまり負けない。サッカーはめっちゃうま。シュート力はすさまじく、当然のことながら軸。聞くところによると、兵庫県選抜としてヨーロッパ遠征をしてるとか。今年、結婚。プクプク太っちゃって。試合に負けると腹を立てるタイプ。(いるんだ、こういう奴が)

### 本多 副キャプテン

とにかく要領がよく、非常に熱し易く、冷めにくい。(女に関してはメチャ簡単に冷めてしまう。オレはよく知っている。)背の高さを生かしてのヘディングは絶品。試合中泣きそうな顔になるのが面白い。試合に負けると、長い首の根元からガックリうなだれて、かわいそうになってしまうタイプ。

### 河合

ムチャ素直。(言葉を裏返せば、単純。わがまま)たまに調子にのると、これがすごい。マラドーナが神業を披露するごとく、河合が神業を披露する。試合に負けると、反省点を自問自答。試合終了5分後には自主トレに入るが、10分後には飽きてしまうタイプ。

### 戸沢

ちっちゃくて、かわいい男の子。(けど、サッカーうまいんだよ)すばしっこくてよく動く。パスを出せなくて困っていると、まわりをチョロチョロしてくれて、大助かり。試合に負けてもけろっとして、今晚何をして遊ぼうかと考えているタイプ。

### 新美

すばらしい反射神経を持ち、バスケット部から、あえてGKとして転入部。一見ちゃらちゃらしているが(不良にあこがれていた)実は、真面目で、とても練習熱心。ゴールを守り続けた大きな存在。地味なポジションで派手な格好をしていた。試合に負けると責任を感じて落ち込んでしまうタイプ。

### 木下

厳しい練習は肌に合わなかったようで、よく手を抜いていたが、サッカーを愛し、そして、うまい。格好を気にせず、型にとられないサッカーで、41期サッカー部の救世主的な存在となる。トーキックによる地を這うようなパスは定評あり。試合に負けると、悔しそうな素振りを見せるも、内心試合が終ってホッとしているタイプ。

### 竹中

この文の執筆者。やさしくて、格好がよくて、いい奴だ。ということにしておこう